

2015年9月

第60号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート
Tel. 018-883-1888

戦後70年安倍首相談話

8月14日戦後70年を迎えるにあたって安倍首相談話を発表した。

今回の談話を巡っては一時安倍首相個人としての談話発表も検討され、さらに、これまでの言動から「侵略」や「おわび」の明記がなされるか注目されていたが最終的には閣議決定による談話となり、過去の談話で4つのキーワードとされてきた「植民地支配」「侵略」「痛切な反省」「心からのおわびの気持ち」のすべてを盛り込んだ内容となった。

今回の談話は約3400字に上り戦後50年の村山首相談話、戦後60年の小泉首相談話（ともに1200字前後）に比べ、異例の長文となった。

その要旨は次のとおりである。

1. 日本は、世界の体制を見失い、満州事変、国際連盟からの脱退など「新しい国際秩序」への「挑戦者」となり戦争への道を進んだ。（歴史認識）
2. 日本は先の大戦への深い悔悟とともに事変、侵略、戦争などいかなる武力行使も二度と用いず、植民地支配から永遠に決別することを誓った。
3. 我が国は、先の大戦行為に「痛切な反省」と「心からのお詫びの気持ち」を表明してきた歴代内閣の立場は今後も揺るぎないものだ。
4. 寛容の心で、日本との和解に尽力してくれたすべての国々と人々に感謝する。
5. あの戦争に何ら関わりのない、次の世代に謝罪を続ける宿命を背負わせてはならない。
6. 歴史の教訓を胸に刻みよりよい未来を切り拓いてゆく。
7. 日本は、自由、民主主義、人権といった基本的価値をゆるぎないものとして堅持し、「積極的平和主義」の下で、世界の平和と反映に貢献していく。

今回の談話に対する評価は、国内世論調査では50%（産経・FNNは57%）前後の評価を得て「評価しない」を大幅に上回っており、特に「次世代に謝罪を続ける宿命を負わせない」ことについては65%前後の高い支持を得ている。

また、海外の反応としては米国ケネディ駐日大使が「非の打ち所がない内容」と高評価を与え英国・豪州・台湾・フィリピンなども肯定的評価。中国・韓国政府も抑制的な批判にとどまっている。

安倍首相は「できるだけ多くの国民と共有できる談話を作りたい」として各方面に配慮する形の談話となっており、様々な意見が錯綜する中、左右双方の納得が得られるよう腐心のあとが読み取れる文脈となっている。

今後はギクシャクしている中国・韓国との対話を深め、事あるごとに「謝罪」を求められている現況を改善し、真に「謝罪から解放」される日が早急に訪れることを期待したい。



高まるために捨てる

ニーチェの言葉

人生はそれほど長いものではない。夕方に死が訪れても何も不思議もない。だから、わたしたちが何かをなすチャンスは、いつも今この瞬間にしかないのだ。

そして、その限られた時間の中で何かをなす以上、何かから離れたり、何かをきっぱりと捨てなくてはならない。しかし、何を捨てようかと悩んだりする必要はない。懸命に行動しているうちに、不必要なものは自然と自分から離れていくからだ。あたかも、黄色くなった葉が樹木から離れ去るかのようだ。

そうしてわたしたちはさらに身軽になり、目指す高みへとますます近づいていくことになるのだ。

「悦ばしき知識」

安易な人生を送りたいなら

ニーチェの言葉

この人生を簡単に、そして安楽に過ごしたいというのか。

だったら、常に群れてやまない人々の中に混じるがいい。

そして、いつも群衆と一緒につるんで、ついには自分というものを忘れ去って生きていくがいい。

「力への意志」

心の生活習慣を変える

ニーチェの言葉

毎日の小さな習慣のくり返しが、慢性的な病気をつくる。

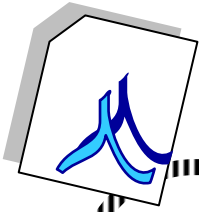
それと同じように、毎日の心の小さな習慣的なくり返しが、魂を病気にしたり、健康にしたりする。

例えば、日に10回自分の周囲の人々に冷たい言葉を浴びせているならば、今日からは日に10回周囲の人々を喜ばせるようにしようではないか。

そうすると、自分の魂が治療されるばかりでなく、周囲の人々の心も状況も、確実に好転していくのだ。



「曙光」



伊藤 博文 (初代内閣総理大臣)

天保12年9月2日 (1841年)	現在の山口県大和町に父林十蔵、母琴子の長男として生まれる。
安政4年2月(1857年)	17歳。松下村塾に入門。
文久2年(1862年)	松下村塾で木戸孝允、高杉晋作、久坂玄瑞らと交わり公武合体論を主張する長井雅楽の暗殺を画策。
文久3年(1863年)	井上聞多、遠藤謹助、山尾庸三、野村弥吉ら所謂長州5傑とともにロンドンに留学。西洋列強の実力を体感。開国・富国強兵論に転じ武力倒幕運動に積極的に参加。
元治元年(1864年)	長州藩が第1次長州征伐で幕府に恭順。高杉晋作に従い「力士隊」を率いて挙兵。反論を倒幕にすることに成功。
明治元年(1868年)	兵庫県知事となる。
明治2年(1869年)	明治維新後は伊藤博文と改名。新政府の中枢で活躍。
明治18年12月 (1885年)	初代の内閣総理大臣となる。 大日本帝国憲法制定の起草。初代枢密院議長。韓国統監府統監、貴族院議長などを歴任。
明治42年10月26日	満州ハルビン駅で安重根に暗殺された。享年69歳。日本銀行券千円券(1963年11月1日-1984年11月1日発行)の肖像として採用された。

オススメのBOOK



『大放言』

作者 百田 尚樹 新潮社

作者は「永遠の0」や「海賊とよばれた男」などのヒット作品で有名。また、歯に衣着せぬ語り口で時々物議を醸しだしている人としても有名。本書は題名の通り「大放言」またまた物議を呼びそうな内容である。しかし、様々な問題を本音で語りかけて真実に迫る迫力満点の書でもある。つい最近、自民党の若手議員を対象として講演をした際、ある議員から沖縄のメディアを牛耳る「沖縄タイムス」と「琉球新報」についての質問があり、これに「あの新聞社からは自分は目の敵にされておりあの二つの新聞はつぶさなあかんですけど」と述べたことが大問題に発展し大騒ぎとなった。こうした問題の真相について丁寧に書かれていますよ。是非ご覧下さい。



火災保険改定！長期契約が廃止になる前に火災保険の見直しを

先月お知らせしたとおり10月1日から火災保険料が改定となります。全国平均で3.5%引き上がる内容となっています。

今回の改定では自然災害や水漏れ災害の増加による保険金の支払いが近年増加していることが背景にあります。また、保険期間も最長10年間に制限する改定も行われます。(現在最長36年)

それでは、具体的にどの位保険料が変わるのか大手損保会社の例を見てみましょう。

建築年月：H26.4 構造：木造(専用住宅) 面積：100㎡
 保険金額：2000万円 損害時の自己負担：3万円

保険期間	秋田県		山形県	
	～H27.9.30	H27.10.1～	～H27.9.30	H27.10.1～
1年	35,400円	43,120円	37,860円	43,120円
5年	152,260円	179,720円	162,780円	179,720円
10年	290,340円	353,940円	310,420円	353,940円
15年	419,580円	販売停止	448,580円	販売停止
20年	539,980円	販売停止	577,280円	販売停止
25年	656,820円	販売停止	702,200円	販売停止
30年	768,360円	販売停止	821,460円	販売停止
35年	874,580円	販売停止	935,020円	販売停止
36年	895,820円	販売停止	957,720円	販売停止

保険期間の長期化 (保険期間に応じた割引率)

保険期間	長期年払・長期月払
2年	4%
3年	6%
4年	7%
5年	7%

団体扱いの場合は割引率が異なります



秋田県においては、20%強の引き上げが見込まれます。火災保険は保険金額や補償範囲が同じでも、保険期間が長いほど保険料は割安になることが表でもお分かりだと思います。

短期の火災保険契約は、更新のたびに保険料が値上がりする可能性があります。長期契約は基本的に値上げの影響は受けません。割引率は保険会社によって異なりますが、36年契約を一括払いすると約11年分の保険料を節約することができます。

★地震保険の契約年数にご注意！

火災保険に付帯する方式での地震保険の契約年数は最長で5年となっております。火災保険の契約とは別に5年毎の更新が必要です。政府の再保険があることからどの保険会社でも同じ保険料になります。

保険期間：1年 保険金額：1000万円

県名	耐火造	非耐火造
北海道・青森県・宮城県	8,400円	16,500円
秋田県・山形県	6,500円	10,600円
東京都・千葉県	20,200円	32,600円
宮崎県・沖縄県	8,400円	16,500円

大切なマイホームにかかる火災保険、必要十分な補償を見極め保険料が割安な長期契約を検討されてみてはいかがでしょうか。



今年89回目の大曲の花火大会！！
 高校野球と共に暑い夏の終わり

【編集後記】

今年の高校野球は東北勢が非常によく頑張った。秋田商業が80年ぶりにベスト8に勝ち進んだ。成田投手の著しい成長を見ることができた。

決勝戦は東海大相模と仙台育英。今年で100回を迎える大会、一度も優勝旗が白河の関を越えたことがない。今年には仙台育英佐藤投手・打撃ともにバランスのとれた良いチーム。白河越えのチャンスと大いに期待したが、残念ながら準優勝で終わった。

青春をかけたはつらつとした躍動感溢れたプレーに惜しみない拍手を送りたい。

高校生たちの暑い夏も終わった。ご苦労様。